



陳情書を文部省佐々木財務課長◎に提出

# 全員参加の修学旅行を 目指して 文部省に陳情

## ＝全修協・三地区修旅連＝

### 要保護・準要保護家庭と へき地校の児童生徒に

## 国庫補助金の増額を

財団法人全国修学旅行研究会(山本種一理事長)と、関東・東海・近畿三地区公立中学校修学旅行連合委員会(井桁孝会長・前習志野市立第一中学校長)の代表は、平成五年度の要保護・準要保護家庭並びにへき地校の児童生徒の修学旅行費、校外活動費に関する国庫補助金の増額について、六月十八日文部省に陳情を行った。

東地区公立中学校修学旅行委員会高澤一男運営委員長の五名、文部省側は教育助成局長、木正峰財務課長が対応し、鳩山邦夫文部大臣あての陳情書を手渡した。

経済企画庁の資料をもとに、全国消費者物価指数の上昇による修学旅行費等の影響、関係の実施報告に基づき修学旅行費の実態について陳情が説明し、国庫補助金として、文部省側は教育助成局長の予算を7%増額するよう求めた。

これに対し、文部省側からは「7%増は厳しい数字であるが十分努力する」との回答があり、来年度の補助金増額を期待したい。

## 海外修学旅行は 4年で倍増

### ＝文部省の国際交流調査から＝

平成二年度に実施された海外への修学旅行は、昭和六十

一年度と比べて倍増した。文部省が先月発表した「教育の国際交流等に関する実態調査」の結果によると、平成二年度に小学校四校(私立)、中学校三校(国立)、公立、私立二校、高等学校四十六校、私立百八十四校が海外修学旅行を実施しており、隔年実施のこの調査結果は別表のとおりで、高校の参加者は四年前の二倍を超えた。

旅行先別では韓国が最も多く、アメリカ、台湾がこれに続き、いずれも顕著な伸びを示しているが、中国は列強事象等の影響で激減した。また、行き先は十九か国に上っている。

次に、高校生の海外留学は、四年間で約四割増加し、平成二年度に三か月以上留学した生徒は四千四百八十三人を数え、行き先はアメリカが70.5%と圧倒的で、以下オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、イギリス、フランス、ドイツ、イタリア、オーストラリア、カナダ、ニュージーランドと、英語圏が大多数を占める。

三か月未満の修学旅行も増加し、昭和六十三年の二・八倍に達した。行き先はアメリカ、オーストラリア、カナダ、ニュージーランド、韓国がこれに続く。

区分	旅行先国名等別学校数及び参加者数						
	海外修学旅行実施校	韓国	アメリカ	台湾	中国	シンガポール	その他
昭和61年度	134 (28,940)	68 (15,060)	16 (2,619)	12 (2,965)	24 (6,987)	1 (31)	13 (1,277)
昭和63年度	204 (50,728)	87 (23,543)	25 (7,304)	11 (4,035)	39 (9,220)	4 (746)	38 (5,880)
平成2年度	231 (61,949)	130 (36,364)	56 (17,117)	21 (7,315)	32 (3,258)	9 (1,317)	45 (9,830)

(注) 1.昭和61年度及び昭和63年度は、公・私立高等学校における数である。  
2.旅行先国名等は、複数回答である。



現地校との交流は152校が実施

## 文化財見学の意義

時 言 編集委員 北條直樹

七月、本年の修学旅行も前半を無事に終了したが、シーズン中のマスコミの取上げ方に、観光型と体験型などの用語が目についた。

最近の傾向として、観光型から体験型に変わりつつあるという指摘である。観光型では、バスを連ねて京都・奈良の社寺を巡ることを例に挙げ、スキーなどの体験を主とした修学旅行に移りつつあるとこのころである。

マスコミは傾向を述べただけで、体験型が新しく、望ましい方向であるという錯覚を起す恐れもなしではない。

この際、そうした短絡的思考の誤りを指摘するとともに、修学旅行の本質論に立ち返って、社見学の意義を見直したい。

まず、誤りの第一は、体験の意味の取違である。社見学は、歴史的な文化財などについて、社会科や美術等で学習した内容を、直接体験し自分のものにする

ものであると同時に、ひいては、文化遺産を、国民の一人として継承していくことの大切さを知る意義を持つ。

新学習指導要領総則の中に「体験」の強調が入ったが、体験の解釈を、スキーなど身体を動かすことだけに限定してしまつたのは、大きな誤りと言わねばならない。見学に当たっては、現地までの交通手段やグループが学級全体かなど、方法はいろいろ考えられるであろう。繰り返して言うが方法論の是非は別にしても、社見学は我が国の歴史や文化の学習内容であるとともに、学校で学習し得ない大きな文化体験である。

第二に、観光型から体験型への移行の中で、スキー修学旅行の増加が挙げられている点である。確かに高校では一般的であり、中学校でも一部その傾向があることは事実だが、それを修学旅行の体験型として全面的に肯定することは問題がある。

また、明治初期を懐古すれば、廃仏毀釈という愚行の歴史の中で、文化財の重要性を教えたくれたのは、フェノロサである。

今日、法隆寺の救世観音を私たちが見ることができると、「陳れる音楽」と評された薬師寺東塔を修学旅行生も仰ぐことができる。二十世紀の哲学者ヤスハイスは「国宝第一号である法隆寺弥勒菩薩を一人間のもつ心の永遠の理想の最高度の表徴」と絶賛した。

国際的視野に立つと、国際理解を基調にすることが今日の教育では特に大切とされる。我が国の文化財を青少年の時期から直接体験することは、広い知見や豊かな情操の陶冶とともに、国際的視野につながることを忘れてはならない。

先日、京都の三十三間堂に、伽藍の百分の一模型とミニチュアの千手観音像が安置された。視覚障害者に、手で触れて観音像の姿と心に触れてもらおうとする配慮からであり、文化財を国民すべてのものにしようとするものである。

国宝・重文などの文化財は、京都・奈良が圧倒的に多い。関西の子供たちは校外学習で、関西以外の子供たちは、修学旅行がそれに接する唯一の機会である。これを改めて銘記したい。社見学修学旅行は、歴史的風土と文化財の優れた「体験学習」である。

## 風紋

二五〇種もあるヤンマの中で、タイワンウツヤンマは名のおり台湾原産のトンボだ。もともと紀伊半島南部が北限とされるものだが、ここ数年、大阪や京都南部にも飛び交うようになった。地球温暖化によるものだと学者は指摘する。▼専門家で組織する国際委員会IPCCでは、地球温暖化によって、一世紀後には○三・一メートルも海面が上昇すると予測し、各国に深刻な問題を投げかけている。日本でも、先日運輸省が、所管の護国寺を、するだけで十二兆円、放置すれば三十兆円にも及ぶとの試算結果を発表した。しかも全国の海岸線のうち、運輸省管轄はわずか四分の一に過ぎないといふ。▼六月は、国際的には、国連環境開発会議が大きなニュースであった。地球の温暖化・オゾン層の破壊・熱帯林の減少など、地球規模での協力が強調され、リオ宣言を採択。初の環境に関する首脳会議も開催された。▼国内でも環境月間として各地で種々の催しが行われた。「人の健康の維持と地球環境保全のため、積極的に参与する」という環境宣言を出し、行動計画を進めるといふ自動車業界の動きもある。▼京都では「高校生による国際環境シンポジウム」が行われ、数か国の留学生も参加し、リサイクルなど、足元から始める取組みが話し合われた。▼夏休み。環境問題は「過性で終わる問題ではない。空気が目につく、水が気になる季節。旅もそうだが、日常的に自然と人間との共生を足元から実行していかよ季節だ。比

信頼される旅づくり

修学旅行は、プランニングから実施まで、安全で意義深いものでなければなりません。近畿日本ツーリストでは、修学旅行に必要な事項をキメ細かく網羅した全国地域別「企画書シリーズ」を作成し、ご活用いただいております。さらに、北海道から沖縄まで、修学旅行・ビデオテープ「学習の旅シリーズ」もご用意。学校の教育方針に沿いながらも、生徒ひとりひとりの心に輝く思い出づくりのため、国内・海外のネットワークを駆使して、細心の努力をいたします。

# ツリストの修学旅行。

心にあざやかな思い出

近畿日本ツーリスト

本社 千101 東京都千代田区神田松永町19-2  
支店/国内250店(登録)/海外15店 運輸大臣登録一般旅行業第20号

# 修学旅行新聞

発行所 財団法人  
全国修学旅行研究会  
発行人 前田寛田  
〒101 東京都千代田区  
西神田2-8-7 (福ビル)  
☎03(3262)2426・2932  
振替 (東京) 6-36337

修学旅行は、学習を社会に移したもので、生活指導及び集団訓練の好機会であり、教育計画の一環として行う学校教育に極めて重要な行事である。教育計画の一環として行う学校教育に極めて重要な行事である。教育計画の一環として行う学校教育に極めて重要な行事である。

(財団法人 全国修学旅行研究会の趣意書から)

